

同級会

小林守城

一割ぐらい亡くなりました。
住所不明が二人いて、
山あいの中学校の同級会です。
都合で出席できない人、
それでも二十数人は戻ってきます。

初めて聞いた英語の SHE
黒板の文字が眩しくて
「彼女」という言葉が
初恋を意味していたころのこと。

遠くからちよつと覗いて見てる人
思い出すたび辛くなる人
ふるさとすてて
別のところに見つけた人
それでどうするどうしてる
白鷺のように さようなら。

もういいじゃないか。
この歳まで持ち越しの
忘れきれない思い出
あるだけで
燕のように さようなら。

同窓生のふるさとに
まぎれようもなく今もいて
幹事はそんなことばかり、
気にして返事を待っている。
一人の加害者であった
かのように。

風見鶏

小林守城

風は天から吹いてくるもの。
(近頃は放射能まで連れてくる。)

流れに向かって真つすぐに、
魚は姿勢を保つように、
荒れた海では真つすぐに
波に向かって直角に
舟は進むしかないように、

一人になってじつと見てれば、
風見鶏はいつも高いところでひとり、
受難のようにさびしい顔をしているよ。

人生二毛作

小林守城

いまの高齢社会では
少し恰好のよさそうな
人生訓のようだけど
生きる時間が延びた分
目当て作らにゃ野放しだ

望み願った野放しだけど
時間は遊んでいてくれない
負けて惜しみて荷車を
引いていくよなことだけど
二毛作しかないんだと

いいんだそれで わたくしの
わたしがだんだん遠くなり
いやしとゆるしの夕焼けと
そして明日がついてくる
一期一会の朝がくる

炎のエスキス (残照)

小林守城

放射能

死に向かって狂うことが唯一の救いのようなこの時代に、
それでも私たちは宗教改革者・マルチン・ルターーのように、
「たとえ明日、世界が終わりであっても、私は今日
リンゴの木を植える。」・・・そんなことができようか。
神は二―チエのころに、仏は明治のころに死んだまま。
宇宙がまわっているだけだ。私たちに祈りだけを残して。

美しい直線

定規を当てれば美しい直線を書くことはできる。
三・一一以降、ノートに引いた野線が恐くなった。
単純で美しいことは恐ろしいことだ。あり得ないことを、
夢や希望と話してきた子どもたちに、詫びねばならない。
美しく狂うことを文化だったと、
子どもたちに伝えることは、嘘を続けることだ。
定規なしで書く直線は真つすぐな曲線だ。
張りつめた人のたおやかな筋肉のように。

絆

三・一一以降、わたしたちはどんなに
大切な絆を取り戻そうとしても、それは、
加害者としての絆であったことを、一時でも
忘れさせるものではない。
私がかんたん遠くなり、意味が壊れて
だんだん他者の音に近くなる。
そうゆう人になることか。
ほんものの詩人になるということは。
己を超えて遠くいのちの見える人。

蜂の巣とり蜂の一撃ありてよし

足るにいたれり 人の業なり (守城)